

富士山 噴火時 避難ルート マップ

観光客・登山者の皆様へ

このマップは、富士山の突発的な噴火に際して、観光客・登山者の方々の噴火時の避難行動や支援の目安となるよう作成したものです。

「既存路マップ」には、原則として、避難時に徒歩での避難が可能な道を表示するとともに、現在地や避難方向を把握するため、地図上に接続ポイントを表示してあります。

「富士山噴火時避難パターン」には、過去に発生した噴火の典型的な10パターンで予想される火山現象の影響範囲を踏まえ、緊急的な避難を含めた避難方向を表示してあります。

【平成28年6月作成】

（このマップのお問い合わせ先）

山梨県防災局防災危機管理課
山梨県甲府市丸の内1-6-1
電話:055(223)1432

静岡県危機管理部危機情報課
静岡県静岡市葵区追手町9-6
電話:054-221-3366

登山の際には

- 最新の火山活動をチェックしましょう。
- 登山計画書(登山届)を提出しましょう。
- 緊急速報メール[※]等を受信できるよう携帯電話の電源を入れておきましょう。
- ヘルメットなどの安全装備を着用・持参して登山しましょう。



※緊急速報メール：気象庁から配信される特別警報や緊急地震速報などを、該当する地域に無料で一斉配信する、携帯電話事業者のサービス。
(お手持ちの携帯電話が受信設定されていることを確認してください。)

火山情報はここから
(火山登山者向けの情報提供ページ)



気象庁

全国オンライン登山届コンパス
はここから



コンパス

全国避難所ガイドはここから
気象情報等の発令をプッシュ通知でお知らせします。また、避難所の検索・表示機能等が搭載されています。



全国避難所ガイド

マップは
ここから



火山活動に関する情報

噴火警戒レベル

- 噴火警戒レベルとは、噴火時などに危険な範囲や必要な防災対応を、レベル1から5段階に区分したものです。
- 各レベルには、火山の周辺住民、観光客、登山者等のとき防災行動が一目で分かるキーワードを設定しています(レベル5は「避難」、レベル4は「避難準備」、レベル3は「入山規制」、レベル2は「火口周辺規制」、レベル1は「活火山であることに留意」)。
- 対象となる火山が噴火警戒レベルのどの段階にあるかは、噴火警報等でお伝えします。
- 登山する前には、噴火警戒レベルを確認しておきましょう。

予報警報	対象範囲	レベル(キーワード)
噴火警報	居住地域 及びそれより火口側	5 (避難)
		4 (避難準備)
火口周辺警報	火口から 居住地域近くまで	3 (入山規制)
噴火予報	火口周辺	2 (火口周辺規制)
	火口内等	1 (活火山であることに留意)

臨時の解説情報

「火山の状況に関する解説情報(臨時)」

臨時の解説情報は、噴火警戒レベルの引上げの基準に達しない火山活動の変化を観測した場合であっても、まず、その事実を地元の関係者や一般の人々に認識してもらうために、気象庁が「臨時」に発表する「火山の状況に関する解説情報」のことです。

登山をする前には、その火山に臨時の解説情報が発表されているかを確認しておきましょう。

噴火速報

噴火速報は、登山者や住民に、火山が噴火したことを端的にいち早く伝えることにより、身を守る行動を取っていただくために気象庁から発表されます。

噴火速報が発表された時は、直ちに身の安全をを図る必要があります。

噴火速報は、登山中でも、ラジオや携帯端末などから知ることができます。

※噴火速報は気象庁が常時観測している各火山を対象に発表されますが、普段から噴火している火山において普段と同じ規模の噴火が発生した場合や、噴火の規模が小さく噴火が発生した事実をすぐに確認できない場合には発表されません。

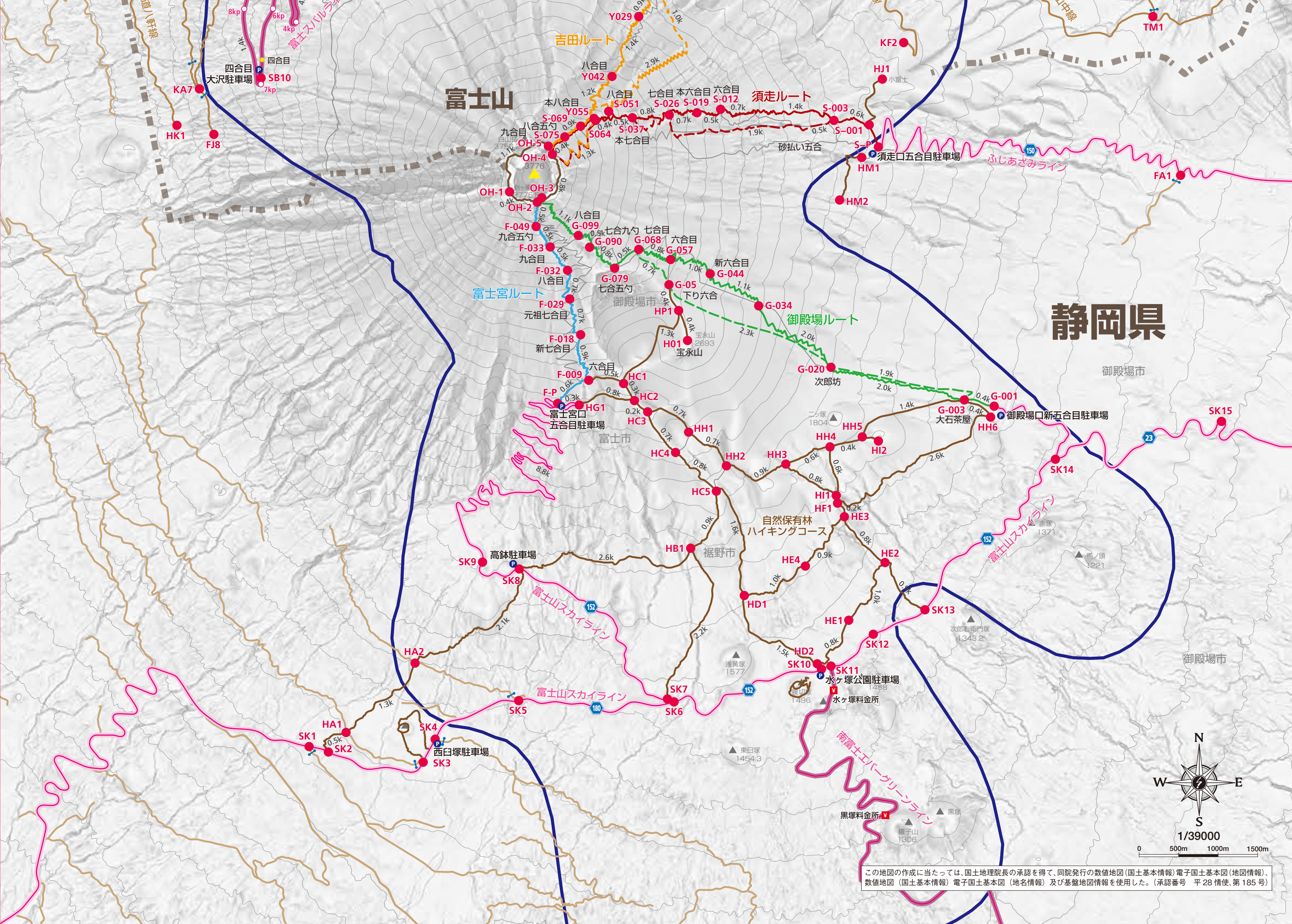
図の見方と記号の意味

この既存路マップには、徒歩での避難が可能な道や、谷地形や窪地、避難方向の目安となる接続ポイントを表示しました。なお、富士山には本マップに表示されていない小さな徒歩道などもありますのでご注意ください。

- 富士スバルライン (SB)
富士スバルライン上のポイントと数字は、五合目駐車場からのキロポストを示しています。
南富士エバーグリーンライン
- ふじあざみライン (FA)
富士山スカイライン (FS)
- 登山ルート(破線は下山ルート)
登山ルートは四色に色分けされています。
- 吉田ルート (Y)
- 富士宮ルート (F)
- 御殿場ルート (G)
- 須走ルート (S)
- 徒歩道
徒歩で通行することのできる道路
- 林道
主に林業経営のため使用される道路。一般車は通行できない場合があります。
- 国道・県道・主な市町村道
- 高速道路
- 県境
- 接続ポイント
登山ルートに示したポイントは現地に設置されている標識の管理番号と一致しています。それ以外のポイントは、現地にポイントを示す標識はありません。
- 接続ポイント間の距離 (kはキロメートルの意味)
- ゲート
林道や徒歩道などに設置されているゲート
- 駐車場
- 料金所
- 想定火口範囲
富士山噴火時に火口ができる可能性のある範囲

対象期間と避難手段について
山梨県側の開山期間である(7月1日～9月10日)及び静岡県側の開山期間である(7月10日～9月10日)に噴火した際に、徒歩で避難することを想定し、作成してあります。

既存路マップ



富士山噴火時避難パターン

考えられる噴火のイメージ

●割れ目噴火



地表面にできる線上の割れ目から溶岩が噴出する現象です。

●溶岩流



溶けた岩石が火口から流出し、地表を流れ下る現象です。流下速度は比較的低く人の足による避難が可能です。

●火砕流



高温の火山灰や岩塊、空気や水蒸気が一体となって急速に山体を流下する現象であり、大規模な場合は、地形の起伏にかかわらず広範囲に広がり、通過域を焼失、埋没させる現象です。流下速度は時速数十kmから数百km、温度は数百℃にも達します。

●噴石(空から降る岩や小石)



火口から吹き飛ばされる直径数十 cm の大きな岩石等は、風の影響を受けにくく、火口から弾道を描いて飛来します。到達範囲は火口から2〜4km の範囲に限られます。比較的小さな噴石は火口から10 km 以上遠方で風に流されて降下する場合もあります。

●火山灰



火口から噴き出る岩石のうち2 mm 以下のものを火山灰と呼びます。火山灰は風に乗って遠くまで運ばれます。火山灰が多く降ると辺りが暗くなるとともに、目を開けていられなくなります。また、吸い込むと呼吸器に影響を及ぼす場合もあります。

●土石流



土砂が水と一体となって谷間を高速で流下する現象です。通常の大雨でも発生しますが、火山灰が積もった場合は弱い雨でも発生しやすくなります。

図の見方と記号の意味

これらの図は、富士山で突発的な噴火(前兆現象が見られない、あるいは、前兆現象から噴火開始までの時間に余裕がない)が生じた場合に、危険な範囲からすみやかに避難するための目安として作成しました。

※ここで想定した噴火は、過去の富士山の噴火から典型的な10パターンを選定したものです。次に起る噴火の厳密な火口位置を予測したものではありません。

SB → 噴火しそうな時、噴火が始まった時に避難すべき方向、アルファベットは噴火開始時の登山者の位置

まずは火口や噴石の降る範囲から速やかに離れます。その後は、より安全な方向に避難します。

SB:富士スバルライン
OH:山頂(お鉢巡り)
Y:吉田ルート
S:須走ルート
F:富士宮ルート
G:御殿場ルート

火口列の位置(紫色実線)
各噴火パターンで仮定した火口の位置です。富士山の噴火では、単一の火口ではなく、いくつもの火口がつながって火口列を形成する場合が数多くあります。

噴石(岩や小石)が降ってくる可能性がある範囲
(火口から約1km)

火山灰が2時間で厚さ1cm程度降り積もる可能性がある範囲
(小石が高速で降ってくる場合もあります)

7〜8月によく吹く風の向きを仮定した場合、火山灰が2時間で1cm程度降り積もる可能性がある範囲
(小石が高速で降ってくる場合もあります)

溶岩流または火砕流が流れ下る範囲
過去に溶岩流または火砕流が流れ下った範囲を示しています。次の噴火でこの通りに流れるとは限りません。

噴火時にとるべき行動

万が一、登山中に突発的な火山噴火が起こった場合は、次の行動をとります。



1 噴火場所を確認し、まずはできる限り火口から離れましょう。その際、火口の風下や下流側、谷間、窪地には入らないように注意しましょう。



2 火口の近くでは噴石が高速で降ってくる可能性があります。避難が間に合わない場合は、ガックなどで頭を守りながら、建物や岩陰に避難しましょう。



3 マスクや濡れハンカチで口を完全に覆ったり、火山灰を目に入れないようにしましょう。



4 状況によっては、登山道から離れて待機したり、別の登山道を使って避難しましょう。

